

授業拝見!

理学、工学、人文科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】

生物資源管理プロジェクト論 永石雅史特任教授

この授業は工学研究科と環境学研究科に横断的に設置されている将来の環境リーダー育成を目的とする「国際環境人材育成プログラム(NUGELP)」の設置に際し開講された授業です。NUGELP以外の学生やNUPACEの留学生も受講しています。使用言語は英語です。

授業は、生物資源管理に関連するテーマ(例えば食糧問題、人口問題、途上国支援他)を広く取り上げるとともに、学生のカントリーレポート発表、さらには途上国の現場で生物資源管理に関連するプロジェクトに関わった実務者を講師として招へいしています。

現場経験が豊富な開発コンサルタントの方々の講義では、具体的でかつ臨場感たっぷりの講義が行われます。理論だけでなく、むしろ将来の環境リーダーとして、現場で役立つ知識やノウハウの修得に焦点をあてているのが大きな特色です。

学生のカントリーレポート発表では、自分の国のプロジェクトを一つ選び、みんなでそのプロジェクトの成果や教訓について議論し合い、熱気にあふれています。



永石 雅史 特任教授



Martinico-Perez,
Marianne Faith Gauran
(フィリピン)
都市環境学専攻 M1



ユニークな生物資源、管理方法もさまざま

この講義では幅広い分野の様々なトピックがカバーされています。講師の先生方も各分野の専門家ばかりで、生物資源管理の理論と、現場での仕事の両方について多くを学びました。どんな生物資源も本当にユニークで、その管理方法もそれぞれ異なります。この授業で学んだことは、将来の環境リーダーとして、これまでの自分の知識やスキルを強化するのにとても役に立ちます。

Ramamonjisoa, Noelikanto
(マダガスカル)
都市環境学専攻 M1

現実を知ることが大切

講師の先生方は生物資源管理分野のプロフェッショナルで、将来就職仕事、またその分野でどんな問題に遭遇するのかについて、具体的なイメージが持てるようになりました。自然資源管理に興味のある人にはお勧めします。実際にこの分野のプロとお話ができるのがこの講義の良いところです。大切なのは理論よりも現実を知ることだからです。

